

株主の皆様へ

# 第74期中間事業のご報告

2024年4月1日から2024年9月30日まで



証券コード2291

## CONTENTS

株主の皆様へ	1
当中間期の概況	2
セグメント別の概況	3
セグメント別売上高	3
通期の見通し	4
中間連結財務諸表	5
会社概況	8
株式概況	9



代表取締役社長 福原治彦

株主の皆様には、ますますご清栄のことと拝察申しあげます。平素は格別のご支援を賜わり厚く御礼申しあげます。

ここに第74期中間事業のご報告をお届けいたします。

株主の皆様におかれましては、今後ともなお一層のご支援、ご指導を賜わりますようお願い申しあげます。

2024年12月

## 当中間期の概況

当中間連結会計期間におけるわが国経済は、多くの企業が実施した雇用・所得環境改善効果が徐々に表れたことから景気は緩やかな回復基調となりました。その一方で、継続する国際情勢不安、世界的金融引き締めの中での原材料価格高騰、円安の進行に伴う物価上昇や中国経済の減速リスクなどの影響が懸念され、依然として先行き不透明な状況が続いております。

当業界におきましては、原材料費やエネルギーコスト、物流コストなどの上昇が企業収益を圧迫しており、景気の先行き不安からくる消費者の低価格・節約志向は一層厳しさを増し、競合他社との価格競争の激化や人手不足等による労働コストの上昇などの影響により、依然として厳しい経営環境で推移いたしました。

このような状況のなか、当社グループは、成長戦略構築と収益体質改善を最優先課題と位置づけ、ハムソーセージ、デリカ商品の「競争力の強化」、生産性向上と営業力強化による「生産量・販売量の拡大」、業務改革ならびにシステム化推進による「収益構造改革」、企業理念再構築と組織改編による「組織力強化」の4点に取り組み、収益体質の強化と企業価値の向上に努めてまいりました。

以上の結果、当中間連結会計期間の売上高は、123億12百万円(前中間連結会計期間比2.8%減)となりました。利益につきましては、営業損失は3億51百万円(前中間連結会計期間は営業損失1億99百万円)、経常損失は3億31百万円(前中間連結会計期間は経常損失1億76百万円)、親会社株主に帰属する中間純損失は3億44百万円(前中間連結会計期間は親会社株主に帰属する中間純利益2億90百万円)となりました。

## セグメント別の概況

### ●加工食品事業

加工食品事業につきましては、国内の人流とインバウンド消費の回復に伴う業務筋向けのウイナー群の大袋商品が堅調に推移したものの、物価高に起因する消費マインドの低下により消費者の節約志向が一層厳しさを増し、量販店向け主力商品の販売量の落ち込みや値上げの影響により、売上高は減少いたしました。

その結果、売上高は50億14百万円（前中間連結会計期間は55億79百万円）となりました。

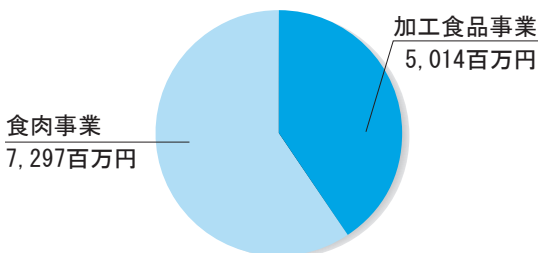
### ●食肉事業

食肉事業につきましては、輸入牛肉・輸入豚肉が依然として高値で推移していることに加え、国産豚肉においても生産性の低下や円安の影響により苦戦いたしました。また、輸入商材の代替品としてホルス切り落としや経産牛などが好調に推移いたしました。また、値ごろ感のある鶏肉へ需要シフトが強まり、鶏肉の販売拡大を図るなど、食肉事業全体の売上高は増加いたしました。

その結果、売上高は72億97百万円（前中間連結会計期間は70億93百万円）となりました。

## セグメント別売上高

区 分	売 上 高	構 成 比
加 工 食 品 事 業	5,014 百万円	40.7 %
食 肉 事 業	7,297 百万円	59.3 %
合 計	12,312 百万円	100.0 %



## 通期の見通し

通期の見通しにつきましては、継続する国際情勢不安、世界的金融引き締めの中での原材料価格高騰、円安の進行に伴う物価上昇や中国経済の減速リスク、物流の2024年問題に起因する輸送能力低下における輸送コストの上昇等、依然として先行き不透明な状況が続いております。また、当社グループは、前連結会計年度において、重要な営業損失の計上及び、2期連続となる営業活動によるキャッシュ・フローのマイナスを計上し、当中間連結会計期間においても重要な営業損失及び営業活動によるキャッシュフローのマイナスを計上したことから、継続企業的前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況が存在しております。

しかしながら、当該状況を解消するために、「成長戦略構築」と「収益体質改善」を最優先課題として、以下の4点に取り組んでまいります。

### I. ハムソーセージ、デリカ商品の「競争力の強化」

当連結会計年度の下期以降においては、消費者ニーズにマッチしたウイナー新商品の開発強化ならびにハンバーグ他のデリカ商品の商品拡充に努め、消費者から選ばれ続ける商品づくりと新たな価値創造による競争力強化に取り組んでまいります。

### II. 生産性向上と営業力強化による「生産量・販売量の拡大」

加工品製造部門と営業部門の製販連携を更に強化し、重点商品を明確にした付加価値の高い商品の生産・販売への集中と拡大に取り組んでまいります。

### III. 業務改革ならびにシステム化推進による「収益構造改革」

基幹システム刷新による効率化・省力化に取り組みつつ、業務改革として製造原価ならびに販売管理費低減を図り、収益構造を大きく改善してまいります。

### IV. 企業理念再構築と組織改編による「組織力強化」

加工カンパニーとエリアカンパニーの連携強化とセグメント別一気通貫での採算管理をより機能強化させ、採算性向上・収益力改善に努めてまいります。

通期の業績につきましては、売上高は252億円（前期は251億円）、営業損失は5億20百万円（前期は営業損失4億19百万円）、経常損失は4億90百万円（前期は経常損失4億4百万円）、親会社株主に帰属する当期純損失は5億20百万円（前期は親会社株主に帰属する当期純利益1億50百万円）を予定しております。

# 中間連結財務諸表

## ● 中間連結貸借対照表

科目	当中間期	前中間期	前 期
	2024年9月30日現在	2023年9月30日現在	2024年3月31日現在
<b>資産の部</b>			
	単位：百万円		
流動資産	5,852	6,896	6,863
固定資産	6,691	7,241	6,704
有形固定資産	4,510	5,263	4,569
無形固定資産	75	91	79
投資その他の資産	2,106	1,885	2,055
資産合計	12,543	14,137	13,567
<b>負債の部</b>			
流動負債	7,025	7,867	7,529
固定負債	3,458	3,884	3,669
負債合計	10,483	11,751	11,198
<b>純資産の部</b>			
株主資本	1,468	1,953	1,812
資本金	2,691	2,691	2,691
資本剰余金	1,503	1,503	1,503
利益剰余金	△2,645	△2,161	△2,301
自己株式	△81	△81	△81
その他の包括利益累計額	591	431	555
その他有価証券評価差額金	578	420	542
退職給付に係る調整累計額	12	11	13
非支配株主持分	0	0	0
純資産合計	2,060	2,385	2,369
負債・純資産合計	12,543	14,137	13,567

(注) 百万円未満の金額は切捨て表示しております。

## ● 中間連結損益計算書

科目	当中間期	前中間期	前 期
	2024年4月1日から 2024年9月30日まで	2023年4月1日から 2023年9月30日まで	2023年4月1日から 2024年3月31日まで
単位：百万円			
売上高	12,312	12,673	25,193
売上原価	10,576	10,714	21,358
売上総利益	1,735	1,959	3,835
販売費及び一般管理費	2,086	2,158	4,254
営業損失	351	199	419
営業外収益	60	73	113
営業外費用	40	50	98
経常損失	331	176	404
特別利益	-	535	591
特別損失	-	-	8
税金等調整前中間(当期)純利益又は 税金等調整前中間(当期)純損失(△)	△331	359	179
法人税、住民税及び 事業税	13	69	29
中間(当期)純利益又は中間(当期)損失(△)	△344	290	150
非支配株主に帰属する中間(当期)純利益又は 非支配株主に帰属する中間(当期)純損失(△)	0	0	△0
親会社株主に帰属する中間(当期)純利益又は 親会社株主に帰属する中間(当期)損失(△)	△344	290	150

(注) 百万円未満の金額は切捨て表示しております。

## ● 中間連結キャッシュ・フロー計算書

科目	当中間期	前中間期	前 期
	2024年4月1日から 2024年9月30日まで	2023年4月1日から 2023年9月30日まで	2023年4月1日から 2024年3月31日まで
	単位：百万円		
営業活動によるキャッシュ・フロー	△190	△237	△178
投資活動によるキャッシュ・フロー	△135	503	909
財務活動によるキャッシュ・フロー	△322	△141	△366
現金及び現金同等物の増減額	△648	124	365
現金及び現金同等物の期首残高	2,514	2,149	2,149
現金及び現金同等物の中間期末（期末）残高	1,865	2,274	2,514

(注) 百万円未満の金額は切捨て表示しております。

# 会社概況

## ● 会社概要

(2024年9月30日現在)

設立	1958年3月22日
資本金	26億9,137万円
従業員数	連結357名
本社	広島市西区草津港二丁目6番75号
支店	広島・山口・岡山・松山 高松・北九州・福岡・佐賀 大分・熊本
営業所	呉・松江・徳島・長崎 熊本南・鹿児島・宮崎
販売部	中四国・九州・関西・関東
工場	広島・熊本・岡山
直販店舗	外食：(焼肉一番団楽) 草津南駅前店・LECT店  精肉： 到津店・砂津店・太宰府店

## ● 役員

(2024年9月30日現在)

代表取締役会長	中島修治
代表取締役社長	福原治彦
取締役副社長	目貫啓治
常務取締役	砂田誠
取締役(常勤監査等委員)	明石嘉典
社外取締役(監査等委員)	池村和朗
社外取締役(監査等委員)	近藤敏博

# 株式概況（2024年9月30日現在）

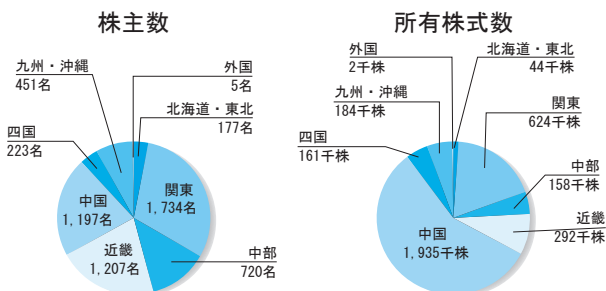
## ●株式の状況

- ① 発行済株式の総数 3,336,748株  
 （自己株式 63,252株を除く。）
- ② 株主数 5,714名

## ●大株主

株主名	大株主の当社への 出資状況	
	持株数	持株比率
	千株	%
株式会社福留興産	750	22.50
福栄会	321	9.65
福原康彦	120	3.61
みずほ証券株式会社	110	3.30
中島修治	72	2.17
福原治彦	63	1.91
株式会社フジ	63	1.89
株式会社広島銀行	48	1.45
株式会社もみじ銀行	48	1.45
株式会社伊予銀行	46	1.39
株式会社西日本シティ銀行	46	1.39

## ●地域別株式分布状況



# 株 主 メ モ

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで  
定時株主総会 毎年6月開催  
基準日 定時株主総会・期末配当 毎年3月31日  
中間配当 毎年9月30日  
公告方法 電子公告(<https://www.fukutome.com>)  
ただし、電子公告によることができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。

株主名簿管理人及び 日本証券代行株式会社  
特別口座の口座管理機関 東京都中央区日本橋茅場町一丁目2番4号  
事務取扱場所 日本証券代行株式会社 福岡支店  
福岡市中央区天神二丁目14番2号  
(郵送物送付先) 日本証券代行株式会社 代理人部  
〒168-8620  
東京都杉並区和泉二丁目8番4号  
(電話照会先) 0120-707-843 (フリーダイヤル)  
(お知らせ)

当社の株主名簿管理人及び特別口座の口座管理機関である日本証券代行株式会社は、三井住友信託銀行株式会社と2025年1月1日をもって合併いたします。

これに伴い、同日以降、当社の株主名簿管理人及び特別口座の管理機関は次のとおり変更となります。なお、2025年1月1日から5日までは、三井住友信託銀行の休業日につき、実際のお取り扱いは2025年1月6日(月)からとなります。

株主名簿管理人及び 三井住友信託銀行株式会社  
特別口座の口座管理機関 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号  
事務取扱場所 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部  
(郵送物送付先) 〒168-8620  
東京都杉並区和泉二丁目8番4号  
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部  
(電話照会先) 0120-707-843 (フリーダイヤル)

受付時間 9:00~17:00 (土日休日を除く)  
インターネット <https://www.smtb.jp/personal/procedure/agency/>  
ホームページURL [https://faq-agency.smtb.jp/?site\\_domain=personal](https://faq-agency.smtb.jp/?site_domain=personal)  
よくあるご質問 (FAQ) [https://faq-agency.smtb.jp/?site\\_domain=personal](https://faq-agency.smtb.jp/?site_domain=personal)

【株式に関する住所変更等のお手続きについてのご照会】  
証券会社の口座をご利用の株主様は、三井住友信託銀行株式会社ではお手続きができませんので、取引証券会社へご照会ください。証券会社の口座をご利用でない株主様は、上記電話照会先までご連絡ください。なお、お手続きやよくあるご質問は、上記「よくあるご質問 (FAQ)」サイトでご確認いただけます。